

1. 本園の教育目標

「たくましい子 思いやのある子」

2. 本年度重点的に取組目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

	評価項目	評価	取組み状況
1	幼児教育要領の改訂を踏まえ、遊びを通して総合的な指導を行う上で、幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育みたい姿」をふまえた指導の状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスでチームティーチングの体制を取り、また、全保育者が園児の担任という意識で園児一人ひとりの理解に努めた。個に応じた援助や発達を促す時期に合った活動を提供できた。 ・発達に応じた「あそび」の提供や生活習慣の支援ができるよう、近隣小学校と連携し「架け橋期」の活動について推進している。 ・今後もこども一人一人の良さや伸びようとしている所を捉え、期待や願いをもち、育ちを支えられるよう心掛けていく。
2	遊びを通して総合的な指導を行う中で幼児に適した環境が整備されているか、安全状況に対する取組み状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の「わんぱくの森」や地域教育施設と連携し、五感を使った活動を通して、子どもの感性に響く環境を考えた遊びや活動を展開した。 ・危機管理については、急を要するものと今後改善を要するものを分ける事により、安全に過ごす事ができた。今後も保育者がこどもの安全を守るという意識を大切にしていきたい。 ・保護者引き渡し訓練を実施し、非常時の避難について確認した。さらに、停電時の連絡や引き渡し等を想定したの訓練
3	一人ひとりの幼児の発達の特性を理解し、教職員間で周知と発達に即した指導の取組み状況	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登園、降園時や参観日等で保護者と話し合う機会を増やすことにより、園児の情報が共有でき、一人一人に応じた関わり方ができた。 ・文字の書き方や箸の使い方が上手に出来る子、出来ない子がいるが意欲的に取り組んでいる。 ・支援の必要な子どもに関しては、職員の加配をし、保護者との面談や関係機関と連携して情報を共有し、援助の充実を図っている。 ・就学に関することについては、保護者と面談し、その子にあった進路をとともに考えることができた。今後もこども、保護者と温かい関係を築き、遊びや生活の中からその子なりの取組や思いを共有していく必要がある。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人一人を大切にした質の高い教育につながった。 「架け橋プログラム」の理解と実践を軸に幼保小の連携を高めることができた。

5. 今後の課題

	課題	具体的な取組み方法
1	幼児期の終わりまでに育みたい姿をふまえた指導	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も「10の姿」を意識した活動を取り入れ、子どもの姿から10の姿を拾い上げ、保育教諭間での連携を強化する。 ・「架け橋期」ならびに「架け橋プログラム」の理解と実践を軸にさらに幼保小の連携を高めていく。
2	幼児に適した環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家からアドバイスを受ける機会をつくる。 ・危機管理マニュアル等を理解し、意識の向上や改善を図る。
3	個に応じた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する園児に対し、個々の発達段階に合った支援や統一した指導や援助のため、個別の支援計画等の資料を作成する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

こども達の一つ一つの活動に粘り強く取り組む姿がよい。新しい行事や活動を多く取り入れていることがこどもの育ちにつながっている。実体験を通して園児を育む姿勢が感じられた。話を理解し、聞いている子が増えてきていると感じる。こども達の運動不足の問題に対応し、遠足や冬の遊びに工夫が見られる。あいさつができない子がいる。親子で改善していく手立てがほしい。今後もこども達の最善の学びについて考え、園の活動がますます充実していくことを期待する。